

建築分野における木材利用の促進に向けた取組

令和5年6月
国土交通省 住宅局

1. 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた建築基準の合理化について
2. 令和5年度 関連予算について

1. 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた建築基準の合理化について

防火規制

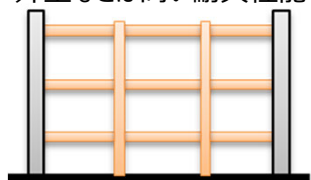
3000㎡超の大規模建築物の 全体の木造化の促進

(現行) 耐火構造とするか
3000㎡毎に耐火構造体で
区画する必要あり



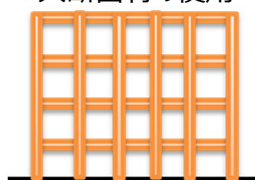
新たな木造化方法の導入

外壁などは高い耐火性能



(高さ16m・3階以下)
周囲への延焼を制御可能

細かな防火区画+
大断面材の使用



区画内で火災を抑制可能

大規模建築物における 部分的な木造化の促進

(現行) 壁、柱、床などの全ての部位に例外なく一律の耐火性能※を要求
※建築物の階数や床面積等に応じて要求性能を規定

防火上他と区画された範囲の
木造化を可能に



高い耐火性能の壁・床
で区画された住戸等
メゾネット住戸内の部分
(中間床や壁・柱等)を木造化
【区画内での木造化】

低層部分の木造化の促進 (防火規制上、別棟扱い)

延焼を遮断する壁等を設ければ、
防火上別棟として扱い
低層部分※の木造化を可能に

※3階建ての事務所部分等



(現行)
3階建ての低層部にも
階数4以上の防火規制を適用

延焼を遮断する壁等

低層部分
木造化を可能に

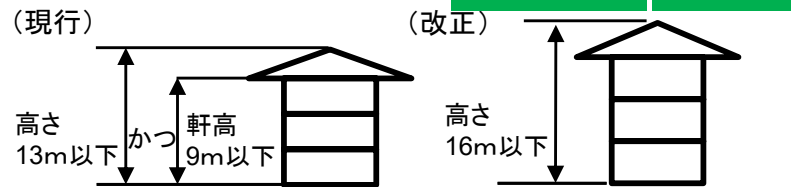
【その他】 階数に応じて要求される耐火性能基準の合理化 [政令改正(令和5年2月10日公布、4月1日施行)・告示改正(今後実施)]
(例) 90分耐火性能等に対応可能な範囲を新たに規定 (現行は60分刻み(1時間、2時間等))

構造規制

簡易な構造計算で建築可能な3階建て木造建築物の範囲を拡大

(現行) 高さ13m以下かつ軒高9m以下は、二級建築士でも設計できる簡易な構造計算(許容応力度計算)で建築可能

簡易な構造計算の対象を高さ16m以下に拡大 ※建築士法も改正



【その他】 伝統構法を用いた小規模木造建築物等の構造計算の適合性を審査する手続きを合理化

その他

○建築基準法に基づくチェック対象の見直し

木造建築物に係る構造規定等の審査・検査対象を、現行の非木造建築物と揃える(省エネ基準を含め適合性をチェック)
⇒2階建ての木造住宅等を安心して取得できる環境を整備

○既存建築物の改修・転用を円滑化するため、既存不適格規制・採光規制を合理化

建築基準法 建築物省エネ法

等

階数に応じて要求される耐火性能基準の合理化(令第107条)

公布: 令和5年2月10日、施行: 令和5年4月1日

改正前

○耐火構造の要求性能は、階数に応じて1時間刻みで規定されていた。

- ※ 最上階から階数4以内 …… 1時間耐火性能
- 最上階から階数5以上14以内 …… 2時間耐火性能
- 最上階から階数15以上 …… 3時間耐火性能

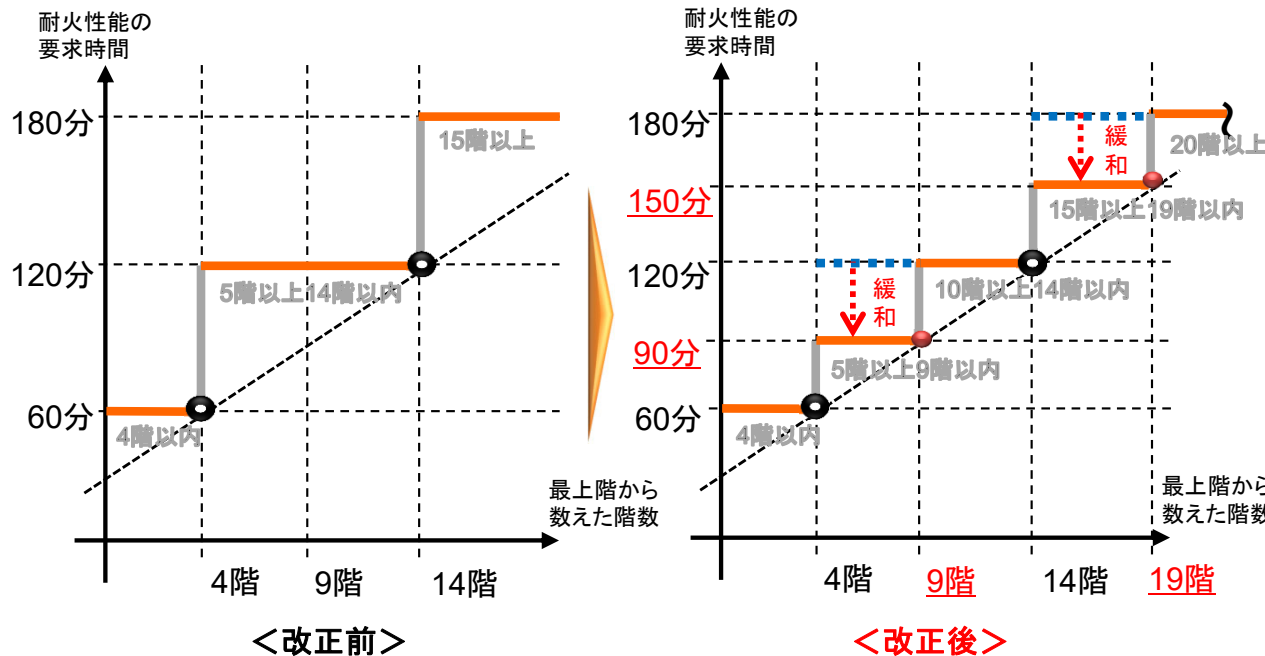
※当該規定は、下階ほど荷重支持力が失われた際に建物全体を崩壊に導くリスクが高いことを踏まえて設定されたものと考えられる。

○木造による中層建築物の耐火設計ニーズが高まる中、最上階から数えた階数が5以上で14以内の階に同水準の耐火性能(=最上階から数えた階数が4以内の階の2倍の性能要求時間)が要求されるなど、きめ細かな基準となっていないとの指摘があった。

改正概要

○中層建築物に適用する耐火性能基準を合理化した。

(最上階から数えた階数が5以上9以内の階について90分耐火性能で設計可能とする 等)



階数	耐火性能要求時間 (改正前)	耐火性能要求時間 (改正後)
4階以内	60分	60分
5階以上14階以内	120分	90分
15階以上19階以内	180分	150分
20階以上	180分	180分

2. 令和5年度 関連予算について

木造化に係る住宅・建築物のリーディングプロジェクトを広く民間等から提案を募り、支援を行うことにより、総合的な観点からサステナブルな社会の形成を図る。

令和5年度事業 募集期間：第Ⅱ期 6/30～7/28

(1) 多様な用途の先導的木造建築物への支援

先導的な設計・施工技術が導入される実用的で多様な用途の木造建築物等の整備に対し、国が費用の一部を支援。

● 補助対象事業者

民間事業者、地方公共団体等

● 補助額

【調査設計費】

先導的な木造化に関する費用の1/2以内

【建設工事費】

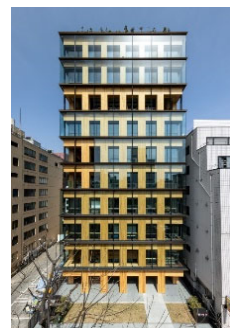
木造化による掛増し費用の1/2以内

(ただし算出が困難な場合は建設工事費の15%)

※補助額の上限は合計5億円



木造・S造平面混構造
12階建てビル



純木造
11階建て研修所

● 対象プロジェクト

下記の要件を満たす木造建築物（公募し、有識者委員会により選定）

- ① 構造・防火面で先導的な設計・施工技術の導入され、耐久性にも十分配慮するもの
- ② 使用材料や工法の工夫によるコスト低減等の木材利用に関する建築生産システムの先導性を有するもの
- ③ 主要構造部に木材を一定以上使用するもの
- ④ 建築基準上、構造・防耐火面の特段の措置を要する一定規模以上のもの
(防火・準防火地域：延べ面積500㎡超又は3階以上、その他地域：延べ面積1000㎡超又は3階以上に限る)
- ⑤ 先導的な技術について、内容を検証し取りまとめて公表するもの
- ⑥ 建築物及びその情報が、竣工後に多数の者の目に触れると認められるもの
- ⑦ 省エネ基準に適合するもの（公的主体が事業者の場合は、ZEH・ZEBの要件を満たすもの）

(2) 実験棟整備への支援と性能の検証

CLT等の新たな木質建築材料を用いた工法等について、建築実証と居住性等の実験を担う実験棟の整備費用の一部を支援。

● 補助対象事業者

民間事業者、地方公共団体等

● 補助額

【調査設計費・建設工事費】

定額（上限3千万円）



CLT（直交集成板）パネル



CLT工法による実験棟

● 対象プロジェクト

下記の要件を満たす木造の実験棟（公募し、有識者委員会により選定）

- ① 木材利用に関する建築生産システム等の先導性を有するもの
- ② 国の制度基準に関する実験・検証を行うもの
- ③ 公的主体と共同または協力を得た研究の実施
- ④ 実験・検証の内容の公表
- ⑤ 実験・検証の一般公開等による普及啓発等

カーボンニュートラルの実現に向け、炭素貯蔵効果が期待できる木造の中高層住宅・非住宅建築物の普及に資する優良なプロジェクトに対して支援を行う。

令和5年度事業 募集期間：第Ⅱ期 6/30~7/28

補助事業の概要

● 補助対象事業者

民間事業者、地方公共団体等

● 補助額

【調査設計費】木造化に関する費用の1/2以内

【建設工事費】木造化による掛増し費用の1/3以内
(ただし算出が困難な場合は建設工事費の10%)

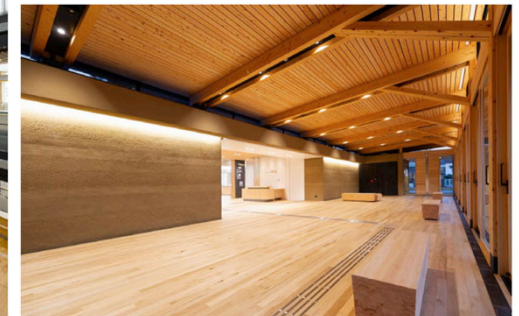
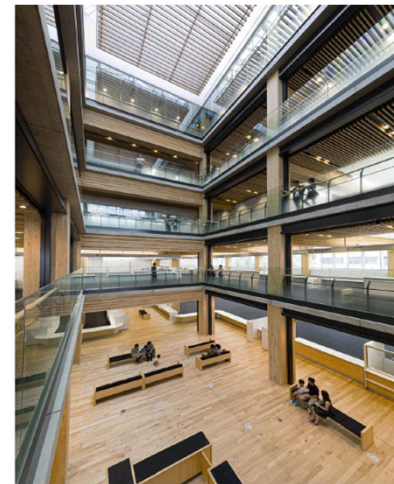
※補助額の上限は合計3億円

● 補助要件

下記の要件を満たす木造建築物

- ① 主要構造部に木材を一定以上使用するもの
- ② 建築基準上、耐火構造又は準耐火構造とすることが求められるもの
(共同住宅等：4階以上、非住宅：延べ面積1000㎡超又は3階以上に限る)
- ③ 不特定の者の利用又は特定多数の者の利用に供する用途のもの
(劇場、集会場、病院、ホテル、共同住宅、児童福祉施設等、学校、美術館、図書館、
百貨店、展示場、物販店舗、事務所 等)
- ④ 多数の利用者等に対する木造建築物等の普及啓発に関する取組がなされるもの
- ⑤ 省エネ基準に適合するもの（公的主体が事業者の場合は、ZEH・ZEBの要件を満たすもの）

【補助対象のイメージ】



中層の木造建築物（事務所）のイメージ

低層住宅やS造・RC造に加えて、非住宅や中高層の木造建築物(中大規模木造建築物)に取り組みたいという設計者の技術力向上を図るため、設計者を育成する取組を推進する。

中大規模木造建築物の設計者向け講習会

意匠設計者及び構造設計者向けに、中大規模木造建築物の設計に関するテキストを用いた講習会をWEBや対面形式等により、全国規模で実施することで、知識・技術を習得する機会を幅広く提供。
令和4年度は、意匠及び構造(動画配信+ライブ質疑)、構造設計演習(対面、東京2回・大阪)の講習会を実施。

講習会の実施

WEB講習の画面

筋かいによる木造5階建て
高耐力の面材耐力壁の加力実験

講義動画配信 (オンデマンド視聴)
2022年 2023年
11月1日(火)~1月31日(火)

動画配信講習+ライブ質疑セミナー
2022年 2023年
12月9日(金)
12月13日(火)

CPDプログラム認定6単位 (学点)
JSCA建築構造士評価点対象 (学点)

意匠設計者向け

木でつくる
中大規模建築の設計入門

使用テキスト『木でつくる中大規模建築の設計入門』発行：公益財団法人日本住宅・木材技術センター（フルカラー、2022年8月発売）

※R4年度講習会の案内（抜粋）

講義動画配信 (オンデマンド視聴)
2022年 2023年
11月1日(火)~1月31日(火)

動画配信講習+ライブ質疑セミナー
2022年
11月9日(水)
11月16日(水)

CPDプログラム認定6単位 (学点)
JSCA建築構造士評価点対象 (学点)

構造設計者向け

木造軸組工法 中大規模
木造建築物の構造設計の手引き
(許容応力度設計編)

使用テキスト『木造軸組工法 中大規模木造建築物の構造設計の手引き (許容応力度設計編)』令和4年度講習会用テキスト/発行：公益財団法人日本住宅・木材技術センター

構造設計演習 (対面のセミナー)

【東京会場①】 AP高新宿 東京都新宿区西新宿7-2-4 (5F)
2022年 (※申込締切日：10月30日)
11月24日(木)~25日(金)

【大阪会場②】 AP大阪茶屋町 大阪府大阪市北区茶屋町1-27 (8F)
2022年 (※申込締切日：11月15日)
12月20日(火)~21日(水)

【東京会場②】 AP高新宿 東京都新宿区西新宿7-2-4 (5F)
2023年 (※申込締切日：12月15日)
1月18日(水)~19日(木)

CPDプログラム認定 (学点)
JSCA建築構造士評価点対象 (学点)

構造設計演習

木造軸組工法 中大規模
木造建築物の構造設計演習
(許容応力度設計編)

設計資料の作成

木でつくる
中大規模建築の設計入門

監修 国立研究開発法人 建築研究所
編集 木でつくる中大規模建築の設計入門 編集WG
発行 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター
制作・編集協力 株式会社 アルマッド建築研究所 株式会社 ホームプランニング

木でつくる中大規模建築の設計入門
発行：(公財)日本住宅・木材技術センター

中大規模木造建築ポータルサイト（令和3年2月17日開設）により、中大規模木造建築に関する知識・技術の習得に役立つ情報（設計技術情報、講習会情報等）や、木造建築の実現にあたりビジネスパートナーを見つけるために役立つ情報（担い手・サプライチェーン情報）、設計者相互の情報交流の場（相談箱）等のコンテンツを提供。

中大規模木造建築ポータルサイト

～中大規模建築を木でつくるための技術・情報集約サイト～

文字サイズ

●標準 拡大

気になるワードを検索する

検索

- ホーム
- ポータルサイトについて
- 中大規模木造建築入門ガイド
- 設計技術情報
- 動画情報
- 講習会情報
- 担い手・サプライチェーン情報
- 補助金・表彰制度情報
- よくある質問
- 相談箱（※登録者限定）

ログイン

メールアドレス

パスワード

ログイン

登録内容の確認・変更はこちら



中大規模木造建築ポータルサイトQRコード

以下、掲載情報の抜粋

中大規模木造建築入門ガイド

➤ 中大規模木造建築の実現に必要な基礎的な情報を掲載



木造と耐火 準耐火建築物



発行：（一般社団法人）木を活かす建築推進協議会

設計技術情報

➤ 具体事例の設計技術情報や木造設計のためのテキストを掲載



発行：（一般社団法人）木を活かす建築推進協議会

動画情報

➤ 設計講習や事例紹介の動画を掲載

